



発行所
 太平山頂上鎮座
 太平山三吉神社総本宮
 宮司 田村 泰教
 秋田市広面字赤沼3の2
 電話 (018) 834-3443
 F A X (018) 834-3444
<http://www.miyoshi.or.jp>



祈
 コ
 ロ
 ナ
 禍
 鎮
 静

三吉梵天祭

宮司 田村 泰教

新型コロナウイルス感染者拡大の陰で、例年流行するインフルエンザの罹患者は激減している。マスクの着用やうがい・手洗いの励行、こまめな換気、適度な社会的距離を取るといった、いわゆる新しい生活様式の中には、今後も慣習化すべき点が多い。▽一方でコロナ禍が始まり、特に目立つようになった密葬という葬儀の様式はどうだろうか。お世話になった方に、感謝の念をこめて手を合わせることをできない形が、本来あるべき姿とは思えない。▽疫病に翻弄され続けた一年が間もなく終わる。未曾有の状況の中で迎える令和三年がどんな年になるのか、今のところ想像もつかない。ただ世界の共通の願いはこの災禍の早い収束、これに尽きる。▽既に一部の国ではワクチンの接種も始まり、治療方法も進化していくだろう。徐々に平穏な日々を取り戻し、この間の諸々の停滞を打開して、明るい話題の多い一年になってほしいと願うばかりだ。▽しかし、この種の病原体は、またいつどこで発生してもおかしくない。眼前の窮状を脱するための努力とともに、鎮静化した後の生活、そしてその先の社会のあり方まで。この出来事を一過性のものとはとらえず、将来の様々なことに思いを巡らす機会として活かせるか。人類の英知が問われているように思えてならない。

くれぐれもご自愛頂き、良いお年をお迎え下さいませようお祈り申し上げます。

言挙げ 73

和歌と祈り

権禰宜 佐々木 佳 祐



今年も残る国書であります。」と語っていますところ、また令和という元号は、梅あと残り僅花の歌三十二首(万葉集 巻五・かとなり、八一五〜八四六)の序文、初春令お正月もい月(しよしゅんれいげつ)、気淑よいよ目前を迎える。今年一年を(よく)風和(やはらぐ)を典拠振り返ると、年始のコロナ禍による激動の年であったのではないのだろうか。平成の御代から令和に移って早々の出来事でもある。その令和の元号が、万葉集からの出典とされたことは記憶に新しく思う。前首相である安倍元総理は、首相談話の一節において、「万葉集は、千二百年余り前に編纂された日本最古の歌集であると共に、天皇や皇族、貴族だけでなく、防人や農民まで、幅広い階層の人が詠んだ歌が収められ、我が国の豊かな国民文化と長い伝統を象徴す

など多岐に渡る。古の時代においては、声に出した言葉が現実の事柄に対して効果をもたらすと信じられる。言霊信仰があったとされる。それは良い言葉を発すると吉事が、不吉な言葉を発すると凶事が実際に起こると信じられていた。ただ言霊が全ての言葉に働くわけではなく、非日常的な言葉、祝詞や和歌のような韻律や枕詞を含む特別な言葉などに現れると考えられていた。古代における和歌には、相手に訴えかける歌が多く存在する。内に秘める想いを声に出すことによって、対象へ影響を与えようとしていたのだろうか。和歌とは、想いを込めて事を動かす、祈りに通ずるものだと、私は思う。万葉集に収められている歌には、疫病に苦しむ人々の歌も収められていたのだろうか。冬の到来によりコロナウイルス感染がなお一層厳しい状況下で、未だ先行きが見えず、不安の残る日々ではある。しかし、新年を目前に控える今こそ、来る新年を明るく言

祝ぎたいと思う。

泰平(たいへい)の世を願わくば 太平(たいへい)と 三吉の神にぞ 今日も祈れり

どうか明年は皆様にとりまして、幸多き良き一年となりますことを切にお祈りいたします。



奉納者ご芳名

「山と生きる」企画展

資料

秋田市 佐藤成樹 殿

みよしスケッチ

閉山祭 (九月十七日)

神人奉仕により、無事に御神体を奥宮より里宮に遷御いたしました。



秋季例大祭 (十月十六日・十七日)

秋空のもと、厳粛に斎行いたしました。



印章供養祭 (十月一日)

古くなった印章や表札を供養し、印章塚にお納めしました。



人形感謝祭 (十月二日)

愛着のある人形に感謝を捧げ、お焚き上げ神事を行いました。



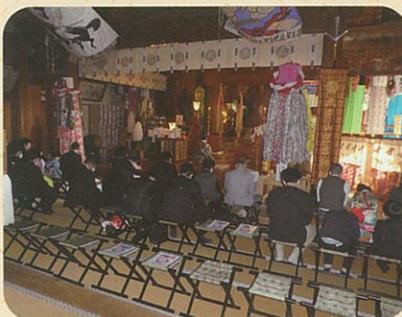
梵天打合せ会 (十二月十五日)

来年の三吉梵天祭の打合せを行いました。



七五三詣

お祝いのお子さんのお参りにぎわいました。



消防訓練 (十二月十九日)

城東消防署並びに秋田市消防団城東分団・東分団の指導のもと、大規模な訓練を実施しました。



厄年・年祝いのご案内

厄年のお祝いや還暦・古稀などの年祝いを迎えられた方々の無病息災・除災招福のご祈願祭を随時行っております。(団体様やホテル等での出張祈願をご希望の方はお気軽にお問合せ下さい。)

令和3年 辛丑(かのとうし) 厄年・年祝い一覧

生まれた年	干支	男性	女性	年齢(かぞえ)
大正12年生	亥(いのしし)	白寿(はくじゅ)		99歳
昭和7年生	申(さる)	卒寿(そつじゅ)		90歳
昭和9年生	戌(いぬ)	米寿(べいじゅ)		88歳
昭和17年生	午(うま)	傘寿(さんじゅ)		80歳
昭和20年生	酉(とり)	喜寿(きじゅ)		77歳
昭和27年生	辰(たつ)	古稀(こき)		70歳
昭和35年生	子(ねずみ)	後厄		62歳
昭和36年生	丑(うし)	還暦(かんれき 大厄)		61歳
昭和37年生	寅(とら)	前厄		60歳
昭和54年生	未(ひつじ)	後厄		43歳
昭和55年生	申(さる)	大厄	厄	42歳
昭和56年生	酉(とり)	前厄		41歳
昭和59年生	子(ねずみ)		後厄	38歳
昭和60年生	丑(うし)	厄	大厄	37歳
昭和61年生	寅(とら)		前厄	36歳
昭和63年生	辰(たつ)		後厄	34歳
昭和64年・平成元年生	巳(へび)	厄	大厄	33歳
平成2年生	午(うま)		前厄	32歳
平成8年生	子(ねずみ)	後厄		26歳
平成9年生	丑(うし)	大厄	厄	25歳
平成10年生	寅(とら)	前厄		24歳
平成13年生	巳(へび)	成人		満20歳
平成14年生	午(うま)		後厄	20歳
平成15年生	未(ひつじ)	厄	大厄	19歳
平成16年生	申(さる)		前厄	18歳
平成21年生	丑(うし)	十三参り		13歳

※年齢は数え年ですので、誕生日にかかわらず新年を迎えると一つ年をとります。



どんど祭

1月31日
(日)

午前10時～午後3時

お正月の松飾りや縁起物、或いは古い神札・お守りなどをお焚き上げいたします。当日ご都合のつかない方は、事前に古神札納所にお納め下さい。

～書籍やぬいぐるみ・置物・写真など神社にご縁のない物や不燃物はお預かりできません。

- 人形類は10月1日の人形感謝祭にお持ち下さい。
- 環境への配慮からビニール袋等は外してお納め下さい。

令和3年 上半期主な祭典・行事予定

1月1日(金)	午前零時	歳旦祭	新年の始まりに国家の安泰と皆様のご安寧をお祈りいたします
1月17日(日)	神事 午前6時	梵天祭	1年の無病息災と安泰を祈り、梵天を奉納する秋田の冬の伝統行事 <u>※今年は拝観できません。終了後に境内にお飾りした梵天をご覧ください。</u>
	奉納 午前8時~9時半		
1月31日(日)	午前10時	どんと祭	古くなったお札やお守、お正月の縁起物などをお焚上げいたします(4頁参照)
2月2日(火)	午前10時	節分祭	季節の変わり目にあたり、身体健やかに、心穏やかに、過ごせますよう福豆をまき供えて除災招福を祈ります
2月11日(木)	午前9時	紀元祭	神武天皇建国の偉業を偲び、国の弥栄と世界の平和を祈念いたします
5月7日(金)	午後6時	春季例大祭宵宮祭	五穀豊穡を始め家内安全、各種産業の発展を祈る春の例大祭
5月8日(土)	午前11時	春季例大祭当日祭	
6月30日(水)	午後3時	夏越の大祓	一年の上半期最後の日に、身に積もった罪けがれを祓い清めます

師走の大祓式

コロナ禍鎮静祈念

この一年の間、知らず知らずの内に自分の身に積もった罪けがれを、祓い清め、清々しく令和三年を迎えると共に、コロナ禍の早い収束を祈ります。

ご多用とは存じますが、是非ご参列下さいますようお願い申し上げます。

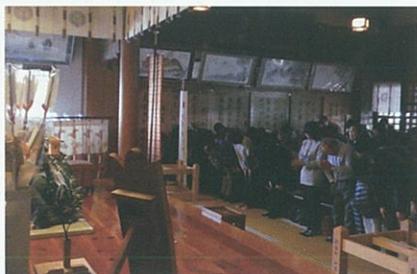
記

一、日時 十二月三十一日(木) 午後二時
一、於 神社拝殿

○ご都合のつかない方は、形代でご自身の身を祓い清め、随時ご持参又はご郵送下されば三十一日当日神事ご奉仕の上、御神符をお送りいたします。

○当日ご参列の方は、参列できないご家族の方の形代をご持参下さい。感染対策を十分に行いますが、例年より参列人数を絞って頂けると幸いです。

※形代(かたしろ)は神社にございますので、必要な数をご連絡下さい。



年末年始のお参りについて

～初詣はゆっくりと～

当社では皆さまに安心安全にお参り頂けるよう、下記の通りの対策を実施いたします。異例の状況で迎える新年となりますので、三が日や松の内にこだわらず。12月中（幸先詣）もしくは1月いっぱい、ゆっくりとご参拝頂きますことをおすすめいたします。

ご理解ご協力のほど、切にお願い申し上げます。

《感染対策など》

- ・三が日は参拝経路を変更いたします～密を避けるため、迂回へのご協力をお願いいたします。
- ・必ずマスク着用の上、お参り下さい。また祈祷を受けられる方は手指の消毒と検温にご協力願います。
- ・持病をお持ちの方やご高齢の方、また感染拡大地域にお住まい等の理由でご参拝が叶わない方は、電話やFAX、また下記オンラインにより祈祷や授与品のお申し込みを頂くことが可能です。
- ・鈴は当面の間、使用できません。また厳冬期は手水舎を閉鎖いたします。
- ・御朱印は、しばらくの間、印刷での対応といたします～カラー版・梵天、太平山図柄入り～
- ・神社内各所に、空間除菌機器と加湿器を設置します。
- ・祈祷の際は、神社側の誘導に従い適度な距離を空けてお座り頂き、進行はマイクを使用します。また、祈祷終了後の密を避けるため、玉串拝礼後に、順次ご退出頂く場合がございます。

●お守り・お札の授与所について

- ・新年のお札・お守り・縁起物の授与は12月1日より開始しております。
- ・11月下旬～1月の土曜・日曜、及び12月26日～1月11日の間は、臨時授与所を開設いたします。
- ・三が日は、東側武道場にも新たに3ヶ所の授与所を設けますので、空いている所をご利用願います。
- ・ビニールの仕切りを設け、奉仕員はマスク・フェイスシールド・手袋着用の上、対応いたします。
- ・状況により開設時間を短縮する場合がございます。

●ご家族などでのご祈祷について

- ・ご高齢の方、ご持病をお持ちの方はご参拝をお控え下さい。
- ・出来るだけ少人数でのご参列をお願いいたします。
- ・仕事始めの（1月4日～8日）期間はお避け下さい。

●企業・団体様のご祈祷について

- ・仕事始めの（1月4日～8日）の期間は、各団体のご参列は5名様までとさせていただきます。（その他の日のご参拝については、お問合せ下さい）
- ・席は団体毎にお座り頂きます。
- ・ご参拝できない団体様には、各種通信祈祷も承ります。

《ホームページからの祈祷・授与品のお申込》

当社ではコロナ禍等により、ご参拝が叶わない皆さまの篤いご崇敬の念に応えるため、下記の通りネットによる各種お申込を開始いたしました。

持病をお持ちの方やご高齢の方・ご遠方の感染拡大地域にお住まいでご参拝できない皆さま、またご家族の仕事や受験などの理由でお参り出来ない方、諸事情により参拝が憚られる団体様など幅広くご利用頂けます。詳しくは神社ホームページ (<http://:miyoshi.or.jp>) もしくは下記QRコードからご覧下さい。



◀ ネットからのお申込み